

TSUDA TODAY

No. 131

津田塾大学

July 2024

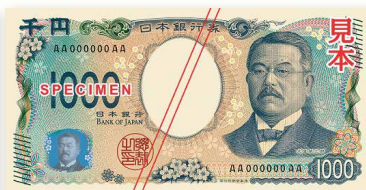


2024年7月3日、創立者 新五千円紙幣の発

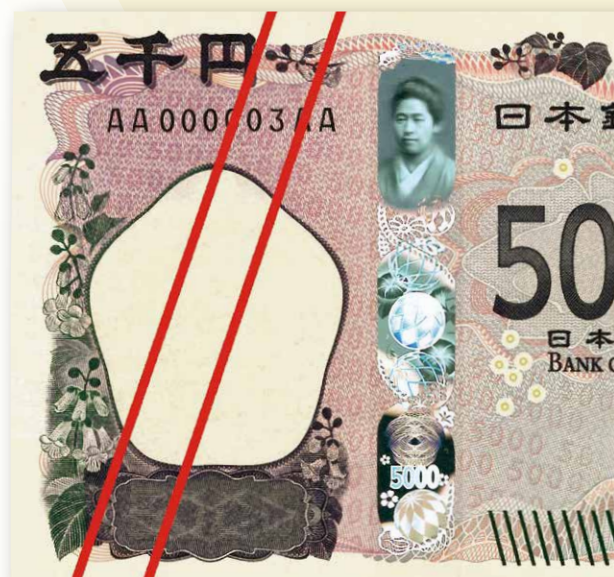
2024年7月3日、本学の創立者・津田梅子が肖像となった新五千円紙幣の発行が始まりました。新一万円紙幣の肖像には日本の近代経済の礎を築いた渋沢栄一、新千円紙幣の肖像には伝染病に対する血清療法を確立した北里柴三郎の肖像が採用されています。なお、新五千円紙幣の裏面には、藤（ふじ）の花が描かれています。



新五千円紙幣の
裏面



渋沢栄一が描かれた新一万円紙幣と北里柴三郎が描かれた新千円紙幣



新紙幣が発行されるまでの主な出来事

✿ 新紙幣発行の発表

2019年4月9日、財務大臣より紙幣のデザインを刷新すること、新5千円券の肖像には津田梅子を採用することが発表されました。大学には報道機関からの取材が殺到したため、急遽千駄ヶ谷キャンパスにて記者会見を開催しました。



✿ スペシャルドラマ

「津田梅子～お札になった留学生～」放送

2022年3月5日にテレビ朝日系列にて、スペシャルドラマ「津田梅子～お札になった留学生～」が放送されました。制作には本学卒業生内山聖子氏がエグゼクティブプロデューサーとして携わりました。創立者津田梅子が女子英学塾を設立するまでを題材として制作され、津田梅子を広瀬すずさんが演じました。



(写真提供テレビ朝日)

津田梅子が肖像となった 行が始まりました。



日本銀行より贈呈されたAA000003AAの新五千円紙幣

財務省および国立印刷局のWebサイトによると、肖像の選定基準は「明治以降の文化人であること」という前2回の改刷時の基準に加え、①日本国民が世界に誇れる人物で、教科書に載っているなど、一般によく知られていること、②偽造防止の目的からなるべく精密な人物像の写真や絵画を入手できる人物であることなどを挙げています。

新紙幣にはさまざまな新しい印刷技術が導入されています。新五千円札には現行の「すき入れ」に加え、新たに高精細なすき入れ模様が施されています。また、見る角度により、肖像が回転する3Dホログラム、紫外線を当てると図柄の一部が発光する特殊インクによる印刷も導入されています。

実際に紙幣として利用されるまでには、大量に紙幣を印刷しておく必要があること、銀行等のATMや自動販売機を新札に対応するため改修しなければならないことから、財務省、日本銀行、国立印刷局は発表から約5年の期間をかけて準備を進めてきました。そして、2024年7月3日から金融機関にて新札での払い戻し・両替が開始され、新たに利用が始まりました。2024年は津田梅子生誕160年に当たる年でもあり、記念となる年に華を添える出来事となりました。

✿ 新札発行記念シンポジウムを開催

2023年12月3日、小平キャンパス特別教室にて、新札発行記念シンポジウムを開催。紙幣の肖像となる人物にゆかりの深い方々にご参集いただき、それぞれが時代のなかで果たした役割についてお話いただきました。450名ほどの参加者があり、盛大なシンポジウムとなりました。



✿ 日本郵便から 新札発行記念切手発売

2024年6月19日、日本銀行券3券種が全面刷新されたことを記念し、記念切手が日本郵便から発売されました。切手は新紙幣をイメージしてデザインされています。シール式84円郵便切手10枚一組のシートごとの販売となっています。



2024年4月より新体制が発足しました

2024年4月1日付けで学長高橋が再任し、中期計画で掲げた新学部創設や国際化推進に向け、新体制が発足いたしました。これらの実現に向けて進んで参ります。



学長 高橋 裕子

学長に再任され、2024年4月1日より3期目の任期に入りました。2024年度から4年間の中期計画で掲げた、新学部創設と国際化推進に向けて、学長室の体制も新たにいたしました。教員の学長補佐にも3名加わっていただき、中期計画の実現を確かなものにして参りたいと考えております。また、事務局体制については、多岐で多岐にわたる課題を速やかに進捗させるべく、チーフオフィサー4名に参加していただく運びとなりました。みなさまと力を合わせて「Tsuda Vision 2030」を力強く推進していく、3期目の学長室メンバーをご紹介します。



副学長（総務・財務担当） 学芸学部情報科学科教授 永井 敦

今年度より総務・財務担当副学長を拝命いたしました。価格高騰や少子化などの逆風の中で、財務の管理、学部再編、マスタープランの実施などやるべきことは山積しております。本学に入職して8年目と比較的短く、さらに自他ともに認める通り、話し下手で頼りなく、とても副学長の器ではありませんが、採用時の感謝の気持ちを忘れることなく、本学の発展に微力を尽くしたいと思います。一方で教育・研究についても副学長になってクオリティが下がった、と言われたいよう精進したいと思います。みなさまの温かいサポートをよろしくお願いいたします。



副学長（広報・学生担当） 総合政策学部総合政策学科教授 奥脇 奈津美

2017年に総合政策学部に着任してから7年が経ちましたが、この間、大学を取り巻く環境には大きな変化を感じます。特に昨年度は、大学入学者選抜の現状・あり方について、自身の理解と意識が著しく変わる年となりました。とはいえ、入口の様子がどう変わろうとも、入学する学生には、自分の求める学びをしっかりと定め、大切な4年間を楽しく実りある時間にしてほしいと思います。学外学修プログラム、留学や奨学金、産学連携活動など、大学から魅力的な機会がさまざまに提供されています。学生が安心して学問の旅を続けられるよう、今後も着実に環境を整えてまいります。「津田塾で4年間を過ごして本当によかった」という想いを育むために。



副学長（国際・教学担当） 学芸学部英語英文学科教授 早川 敦子

創立120周年を迎えた2020年に、コロナ禍とともに始まった副学長の重責は、思い返すと大学の底力を試されるような試練でした。教職員、そして学生たちも一丸となって乗り越えた時間は、あらためて本学の貴重な経験だったと思います。2025年3月まで、第二期中期計画に掲げた目標に則り、国際化や高大連携の推進、新学部を射程に入れた文理融合をめざす全学のカリキュラム構築など、新たな課題にも取り組むこととなりました。質実剛健にして時代をけん引していく津田塾大学ならではの展開を願っています。

学長補佐

中井 博康（学芸学部国際関係学科教授）
大島 美穂（総合政策学部総合政策学科教授）
小舘 亮之（総合政策学部総合政策学科教授）
根本 和彦（事務局）
山本 真之（事務局）

チーフオフィサー

斉藤 治人（事務局代表・経営企画担当）
飴 悠希（法人担当）
菊池 太陽（教学担当）
新居 純子（国際・学生担当）

2024年度入学式式辞

学長 高橋 裕子

2024年は、創立者・津田梅子の生誕160年、7月には津田梅子の肖像が印刷された新5千円券が発行される記念の年です。約5年前、新券の肖像が発表されると、卒業生からメッセージが届きました。「5千円札を見るたびに母校を思い出せそうでうれしくもあり、お財布を開けるたびに、襟を正し、精進せよと言われるような心持ちでもあります」と。

私は40年以上前の自身の留学時代を思い出します。女性参政権運動のリーダー、スーザン・B・アンソニーの肖像が刻印されていた1ドルコインが手に入ると、大切に財布にしまっていました。いつか女性の歴史を書ける人になりたいと思っていた私の、学業成就の「お守り」だったのです。

財務省は、津田梅子選定の理由として、「1871年、岩倉使節団に随行した最初的女子留学生の一人。1900年に女子英学塾（現 津田塾大学）を創立するなど、近代的な女子高等教育に尽力」と説明しています。

建学の精神のキーワードとなる“all-round women”は、津田梅子が女子英学塾の開校式式辞で使った言葉です。

当時は、女性が高等教育を受けること自体、許されない時代。しかし、梅子は明治の女性たちにもリベラルアーツ教育の機会を開きたいと切望し、“all-round women”という英語で、自身の教育理念を説いたのです。オールラウンドと聞くと「理系・文系、そして体育系も万能の人」と捉えるかもしれませんが、梅子はそうした枠組みを超え、女性が男性と対等な自立した個人となることを心から願っていました。その思いは、教職員や学生たちに脈々と受け継がれているのです。

今は女性が男性と同じように大学に行くこと自体は、当たり前になっています。では、女子大学で学ぶ意味は何でしょうか。

日本はジェンダーギャップが極めて著しい社会で、世界経済フォーラムの報告では、146力国中125位です。教育分野でも、識字率、初等教育、中等教育は世界1位でも、高等教育では105位。研究者



や教授、学長に占める女性割合も、世界水準と比べて圧倒的に低い状態にあります。

しかし、本学では学長、副学長、学部長などにも女性が就き、教授やセンター長に占める女性割合も全国平均よりずっと高い。女性が中心に位置し、女性が存分に力を発揮することに学生は違和感がなくなり、自己肯定感や自分自身に対する期待や尊敬を高めることができるのです。このような「女子大学効果」をみなさんに経験していただきたいと思います。

大学の公式Webサイトの“Diversity of Our Lives”には、多彩な分野、さまざまな年代の卒業生100人以上のメッセージが載っています。その中から直近に寄稿してくださったお二人を紹介します。

一人目は佐々木香織さん。重篤なご病気をされた逆境を乗り越え、患者同士のピアサポートを実現すべく、女性SNSコミュニティ「ピアリング・ブルー」を立ち上げました。「変化に対応し、逆境をプラスに変えて前進する姿勢は、確かに学生時代に身についたと思います。質の高い学びと仲間を与え、成長させてくれた我が母校に感謝しています」

二人目は、映画翻訳をされていた戸田奈津子さん。「英語の基礎を身につけたことは言うに及ばず、『人にどう思われようとも、自分が望む道を選び、毅然と生きてゆく』という、私の生きる基盤となる尊い教えを学んだ」

このサイトでは、多くの卒業生からのメッセージを読むことができます。みなさんのロールモデルになる方々との出会いを大切にしていきたいと思います。

2024年度入学者数

学 部	学 科	入学定員	1年次	2年次	3年次
学芸学部	英語英文学科	220	237	1	2
	国際関係学科	200	230	1	—
	多文化・国際協力学科	70	87	—	—
	数学科	45	59	1	—
	情報科学科	45	51	—	—
	小 計	580	664	—	—
総合政策学部	総合政策学科	110	135	—	—
学部合計		690	799	3	2

大学院	課 程	入学定員	1年次	2年次
文学研究科	修士課程	15	9	—
	後期博士課程	5	1	—
理学研究科	修士課程	10	8	—
	後期博士課程	3	1	—
国際関係学研究科	修士課程	10	0	—
	後期博士課程	3	0	—



2023年度卒業礼拝 説教要約

『遣わされた者』として生きる ヨハネによる福音書 17章15～19節（共同訳）

岩崎 謙 氏（日本キリスト改革派教会 引退教師）

今日は「派遣」という視点で津田梅子を見ましょう。7歳で米国に派遣された梅子は25歳で再び留学し、日本の女性たちのために高い学問水準を保つ教育を行おうと帰国します。梅子を見送った大学の関係者らにも、梅子を日本へ「派遣」という使命感の共有があったのではないのでしょうか。「派遣」は、極めて聖書的な用語です。キリスト御自身が、父なる神から遣わされたお方であり、神に背く人びとのために十字架で贖いの死を遂げるという使命を見事に果たされました。これは無私の極みです。十字架と復活の後、キリストは使徒たちを世へと遣わされます。この「派遣」にあたり一番大切なことは何でしょうか。梅子が抱いた「無私の志」とその行い、これこそ派遣された者の基本です。大学の設立に悩む時、梅子は英国の大主教から聖書の言葉を示されました。それに従って歩むなら、神が必ず支え導いてくださるという確信を得、塾設立に向けて具体的に踏み出すことができました。

社会に遣わされる皆様は、これから多くの困難に直面されるでしょう。自分はたまたま今の状況に置かれたと思うか、神がここへと自分を遣わされたと思うのか、この違いが大きな分岐点です。祝福を祈ります。



2024年度新入生歓迎礼拝 説教要約

家出して分かること ルカによる福音書 15章11～24節（新共同訳聖書）

塩谷 直也 氏（青山学院大学 教授）

聖書に登場する「放蕩息子」は父親の財産を奪い取るように家出しますが、一歩家を出るとこの世界は厳しい、誘惑に溢れている。結果全てを失って自滅。それを知りながら父親は息子を説得できません。この子は自分の人生を生きる権利も失敗する権利もある、と知っているからです。父親は自滅して帰ってくる息子を走り寄って抱きしめます。生きていてくれてありがとう、会えてうれしい。この出会いに人間の再生と解放があります。

今までの古い自分に別れを告げて新しい自分になりたいと、そう宣言して一歩を踏み出す、それが大学生です。何度もこの「放蕩息子」の物語のように目標を立てては自滅する、その繰り返しを通して自分の弱さと向き合ってください。人間の器は研ぎをかけるものではなく、何度も壊されて、それでも出会いが与えられて再生するときに本当の意味で厚く大きくなると信じます。聖書はあなたと手をつなぐ強い方がいらっしゃる、それが神様、イエス様ですと教えます。その神様がみなさんの一人ひとりに今日も走り寄り「あなたが世界でただひとり」と言って抱きしめてくださるはずです。昔も今もこれからも。



学位授与報告

博士の学位が次のとおり授与されました。

貝原 千馨枝（カイハラ チカエ）

- 現 職：工学院大学学習支援センター英語科講師、本学非常勤講師
- 学位授与日：2024年3月15日
- 学位の番号：博士甲第19号
- 学位の種類：博士（国際関係学）
- 論文題目：「新しい言語学習障害（N-LLD）」のある子どもたちの英語学習——その社会的構成と学習法の障害学的検討——



津田梅子記念同窓会賞受賞者発表

津田塾大学同窓会では、成績・人物ともに優れ、奉仕の精神に富む4年生に対して、「津田梅子記念同窓会賞」を授与しており、このたび2024年度の受賞者が決定しました。みなさま、受賞おめでとうございます。

●学芸学部

英語英文学科 小柳 日佳莉
国際関係学科 滝川 優里奈
数学科 川野 真佑

情報科学科
多文化・国際協力学科

吉岡 利恵
関根 南帆

●総合政策学部

総合政策学科 代永 衣

2023年度卒業生の就職活動は、新型コロナウイルス禍からの経済活動の回復が進み採用意欲が高い状況のもと、早い時期から動き始める学生が多くみられました。就職決定率（就職希望者のうち就職先を決定した学生の割合）は昨年度と同等の96.9%となりました。公務員は26名で昨年度よりもやや減少しましたが、教員は面接の対策を強化した結果17名となり昨年度より増加しました。企業では学芸学部、総合政策学部ともに、情報サービスに就職する割合が増えています。学ぶ意欲が高い本学の学生の気質が、常に新しい技術を学び続ける必要があるIT業界の特性とマッチしていると考えられます。航空業界の採用活動が本格的に再開され、16名の卒業生が国内外の航空会社の客室乗務員や地上職に決定しました。

これからも1人でも多くの学生の希望を叶えられるよう、少人数だからこそできるきめ細やかな支援を大学全体で目指してまいります。

	学芸学部										総合政策学部		合 計
	英語英文学科		国際関係学科		多文化・国際協力学科		数学科		情報科学科		総合政策学科		
卒業者数	209		182		62		38		45		93		629
就職希望者数	184	(88.0%)	165	(90.7%)	56	(90.3%)	27	(71.1%)	37	(82.2%)	83	(89.2%)	552 (87.8%)
就職者数(決定率 [※])	181	(98.4% [※])	161	(97.6% [※])	55	(98.2% [※])	24	(88.9% [※])	36	(97.3% [※])	78	(94.0% [※])	535 (96.9% [※])
進学者数	11	(5.3%)	6	(3.3%)	3	(4.8%)	7	(18.4%)	7	(15.6%)	7	(7.5%)	41 (6.5%)
その他	17	(8.1%)	15	(8.2%)	4	(6.5%)	7	(18.4%)	2	(4.4%)	8	(8.6%)	53 (8.4%)

	教員 [*]		公務員	
	専任	常勤・非常勤	国家	地方
英語英文	7	3	2	5
国際関係	1	0	2	7
多文化・国際協力	—	—	0	3
数学	4	2	0	0
情報科学	0	0	1	0
総合政策	—	—	2	4
合 計	12	5	7	19

学芸学部		総合政策学部	
日本航空(株)	6	日本アイ・ビー・エム(株)	3
レバレジーズ(株)	4	日本電気(株)(NEC)	2
青和特許法律事務所	4	(株)ニトリ	2
(株)クイック	3	アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業	2
(株)りそな銀行	3	(株)帝国データバンク	2
(株)群馬銀行	3	富士通(株)	1
ANAエアポートサービス(株)	3	(株)野村総合研究所	1
アクセンチュア(株)	3	日本銀行	1
日本アイ・ビー・エム システムズ・エンジニアリング(株)	3	全日本空輸(株)	1
(株)日本経済新聞社	2	デロイトトーマツコンサルティング(合)	1

1年生

2年生

3年生

4年生

学外学修

学内での
キャリア教育

キャリアガイダンス

企業インターンシップ紹介、
個別相談

国内外で多様な経験を
積むことを奨励
(ボランティア、語学研修等)

学びと
経験の
循環

学生時代の
挑戦を選択に
繋げる

企業との連携講座や実践型
インターンシップ参加で進路
について考える機会を提供

キャリア支援

(※必修科目がない第2タームと夏期休暇期間を「ギャップターム」と称し、全学生がインターンシップ等の学外学修に自律的かつ柔軟に参加することが可能)

新任教員紹介



学芸学部 英語英文学科
准教授 木原 健次

専門は20世紀アメリカ文学・文化です。人種・階級・ジェンダーなどをめぐる力学がダイナミックに折り重なって生み出されるアメリカ文学や文化は、自分とは異なった他者の経験に触れ、自分自身を問い直す無数の可能性をもっています。日々の経験や営みを新しい視点から捉え直すきっかけになるような授業を目指します。



学芸学部 英語英文学科
助教 伊藤 千晴

専門はイギリス文化で、19世紀末から20世紀の日英関係、そこから広がっていく人々の生活などについて研究しています。長らく学生として在籍していた場所で、助教として働くことに慣れる時は来るのだろうかと思っていますが、それぞれの興味や関心を探求しようと励んでいる学生みなさんに刺激をもらいながら、自分自身のやるべきことに向き合っていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



学芸学部 国際関係学科
助教 濱松 若葉

長きにわたってお世話になっている母校で、教鞭を取らせて頂けることを嬉しく思っています。障害者就労の現場からみえる「能力」観を研究しつつ、学生みなさまに「弱さを、気づきに。」の精神をもって、自分の頭でちゃんと考え、言語化する楽しさをお伝えできる授業ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



学芸学部 多文化・国際協力学科
准教授 木村 友美

人の集団を対象として健康課題に取り組む公衆衛生学をバックグラウンドとして、国内外のフィールドで食と健康長寿をテーマに研究しています。環境（自然・社会）～身体～食の相互作用に着目する「フィールド栄養学」という新たな学問領域の構築を目指しています。授業では、グローバルヘルス、社会調査法（量的調査）等を担当しています。



学芸学部 数学科
助教 渡邊 南

専門は微分方程式です。特に非線形シュレディンガー方程式の初期値による解の大域挙動の分類について研究しています。女子大から一步外に出てみると数学を学ぶ女性が圧倒的に少ないことに驚きます。だからこそ学生みなさんには切磋琢磨して数学の勉強に打ち込んでほしいと思います。私はそのサポートをしていけたら幸いです。



学芸学部 情報科学科
准教授 植村 あい子

このたび情報科学科に着任した植村です。講義では主としてデータサイエンスを担当します。誰もが音楽を楽しめる環境づくりを目指し、コンピュータによる音の分析・生成技術を活用して、音楽活動の支援や音楽メディアの検索・推薦技術に関する研究を行っています。どうぞよろしくお願いいたします。



総合政策学部 総合政策学科
教授 大西 淳也

津田塾大学総合政策学部へ新任で参りました。総合政策学部ではセミナーとともに、財政と金融、法学入門、経営と会計といった内容の授業を担当します。専門は経営学と会計学との間にある管理会計論で、行政や企業等の効率性・効果性の向上策等について考察しています。財務省等の中央省庁での実務経験を踏まえた授業を行いたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。



総合政策学部 総合政策学科
講師 盛田 有貴

奈良女子大学より参りました。学生と前職合わせて、女子大歴15年目になります。専門は英語学・言語学で、特に語用論と呼ばれる領域です。現在は、ことばのアイロニーについて、聞き手のアイロニーの理解に関わる要因を明らかにすることを目指して研究に取り組んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。

新任職員紹介

学生生活課
学外学修・キャリアセンター UEA
江崎 千絵

本学卒業後、民間・公的機関で国際協力の実務や人材育成に従事して参りました。国内外での勤務を通じて、大学時代の学び・経験が自身のキャリア形成の基盤となっていたことを実感しています。学生達が将来にわたって自分らしいキャリアを切り開いていけるよう、学外学修支援の立場から貢献したいと思います。

経営企画課
木村 友香

2018年10月に千駄ヶ谷キャンパス事務室配属として入職し、2020年6月に夫の転勤のため退職しましたが、再び津田塾大学の職員として働けることを嬉しく思います。新たな環境で幅広い業務に真面目に取り組みながら大学の発展に貢献できるよう努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

永年勤続教職員表彰

永年勤続教職員表彰は、2022年1月に新設された制度で、勤続20年、30年、40年の教職員の功績を称え表彰するものです。2024年3月31日をもって勤続年数が基準に達したとして、今年は以下の教職員が表彰されました。なお、3月31日付退職者には、「津田塾友」の称号も同時に授与されました。

■2024年3月31日付退職者表彰（部門別アルファベット順）

<教員> 野口 啓子 英語英文学科 教授
三砂 ちづる 多文化・国際協力学科 教授



野口啓子教授

三砂ちづる教授

■2024年4月1日付表彰（部門別アルファベット順）

<教員> Chris Burgess 国際関係学科 教授
菅 靖子 英語英文学科 教授（2024年度国内研修のため、表彰式は欠席）

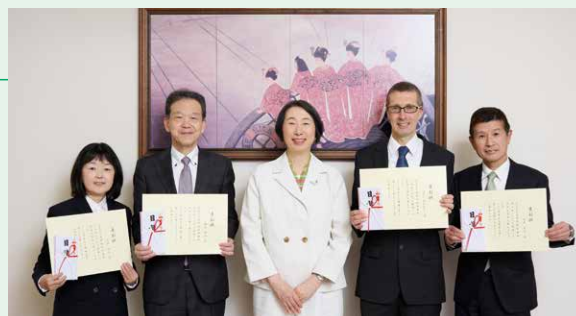
<職員> ●専任職員

根本 和彦 学長補佐（管理課業務担当）

山本 真之 学長補佐（経理課業務担当）

●嘱託職員

久保 倫江 学芸学部事務室



左から久保倫江さん、根本和彦学長補佐、高橋学長、Chris Burgess教授、山本真之学長補佐

ようこそ津田塾大学へ（留学生紹介）

2024年4月に12名の交換留学生在津田塾大学に入学しました。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

●CYセルジー・パリ大学（フランス）

RAPAPORT EMMA（ラパポール エマ）/国際関係学科

SALL AICHA（サル アイシャ）/国際関係学科

●ハノイ国家大学外国語大学（ベトナム）

NGUYEN THUY DUONG

（グエントゥイ ズオン）/多文化・国際協力学科

TA THU PHUONG（タ トゥ フォン）/多文化・国際協力学科



●フィリピン大学（フィリピン）

CASTANOS EDANA FAYE MARIE

（カスタニョス エダナ フェーイ マリー）/英語英文学科

●梨花女子大学（韓国）

LEE SOHYEON（イ ソヒョン）/国際関係学科

OH JIN YEONG（オ ジニョン）/情報科学科

PARK JEONGIM（パク ジョンイム）/情報科学科

●インディアナ大学パデュー大学インディアナポリス（アメリカ）

THORNTON NYA ALEXANDRA

（ソートトン ナヤアレクサンドラ）/英語英文学科

DERISSE SAMANTHA IDA

（デリース サマンサ アイダ）/多文化・国際協力学科

●淡江大学（台湾）

LIU JHIH JYUN（リュウ シクン）/多文化・国際協力学科

SHEN YU AN（チン リカ）/情報科学科

（大学別）

よろしくお願いいたします。

受賞おめでとうございます

日本経済学会・女性研究者奨励賞 （日本生命賞）受賞

国際関係学科
森 悠子准教授

本賞は、優れた研究を行う若手女性研究者に対して授与されます。

●情報処理学会 第139回音楽情報科学研究発表会 学生奨励賞(Best Application 部門)

学芸学部 情報科学科 4年 小島 美緒

学芸学部 情報科学科 4年 小島 みなみ

●ヒーローズ・リーグ2023 XMAKERS 賞

学芸学部 情報科学科 4年 小島 美緒

（いずれも2023年度卒業生で、学年は発表当時のもの）

●国際物流と貿易の未来を考える

「学生フォーラム」で優秀賞

総合政策学部 総合政策学科 3年生チーム
※学年は受賞当時のもの

（柴原 可穂、高橋 里奈、西坂 朋葉、
柿木 悠理葉、小倉 優凜、宮澤 萌瑛、
大澤 陽）

津田塾大学2024年度事業計画

I 基本方針

自立した女性の育成のために、質の高いベラールーツ教育を目指した津田梅子が創立した女子英学塾の建学の精神は、津田塾大学の教育理念として、今日に至るまで連続と受け継がれている。建学以来の伝統である高度な英語教育、少人数制セミナーを柱とする教育は、習熟度別クラスの導入、学科横断コースの設置などの工夫をさまざまに重ねつつ、それぞれの時代の要求する高度な能力を備えた人材を社会に送り出してきた。しかし、急速なグローバル化、少子化が進み、大学間競争が激化しつつある現在、本学は大学としてのミッションを再確認するとともに、迅速に教育改革を押し進め、他大学にはない個性と特色を打ち出す必要に迫られている。

津田塾大学では、2017年に中長期ビジョン Tsuda Vision 2030を策定し、Tsuda Vision 2030を着実に実現するために、2019年に第1期中期計画(2020年度～2023年度)を立案した。2024年度を迎え、第1期中期計画の成果と課題を活かし、第2期中期計画(2024年度～2027年度)を実施する。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、第1期中期計画の実施スケジュールは変更を余儀なくされたが、第2期中期計画は改めて現状を踏まえて立案し、重点事業を実施する。

また、経常的に実施する事業については、以下の基本方針で実施する。

- 教育・研究について、引き続き、その質の向上を図る。
- 教育・研究の各側面において、中長期ビジョンを視野に入れ、必要な改革を進める。
- 財政をさらに改善する。

II 事業計画

1. 重点事業

2024年度は第2期中期計画に沿って以下の重点事業を実施する。

(学部再編に関する計画)

- [1] 学部再編による新しい教育体制の構築

(国際化に関する計画)

- [2] 国際化推進

(教育に関する計画)

- [3] 学部カリキュラムの見直し
- [4] 大学院進学者の確保
- [5] 教育環境の整備
- [6] 学部入試改革
- [7] 3学部体制での初年次教育・リメディアル教育、全学共通科目の充実
- [8] 国家資格となる「登録日本語教員」への対応

津田塾大学2023年度事業報告書(抜粋)

1. 事業の概要

1.1 重点事業

2023年度は、2020年度から始まった第1期中期計画の最終年度(4年目)であり、各分野の目標については概ね達成できた。しかしながら、18歳人口減少の時代を迎える中で、教育面における本学の将来像と魅力を広く伝える必要がある。その為に第2期中期計画では、日本人女性として自然科学研究の先駆者の1人である津田梅子の精神を継承すべく、学芸学部を再編して、理系学部を新設する計画を立てている。3学部体制のもと、専門知識を深める一方で、幅広い視野をもち、異なる分野とのつながりを理解する学生を育成する。また、国際化推進を更に進め、第1期中期計画に引き続き「変革を担う女性」の育成を行っていく。

2023年度は重点事業として以下の事業を実施した。

1 学部カリキュラム見直し

- ・国際関係学科および情報科学科は、改定したカリキュラムに基づき実施した。
- ・多文化・国際協力学科は、2024年度実施にむけてカリキュラム改定を行った。
- ・2024年度学部再編のためのWG(体制、カリキュラム、設備、運用)の中で検討をすすめている。
- ・総合政策学部は、新カリキュラム(2023年度入学者)の概要を問題なく開始した。旧カリキュラムの受講学生についても、読み替え科目の対応を含め問題なく実施した。
- ・ディプロマ・ポリシーに示された「7つの力」を育成すべく、各学部、学科においてカリキュラムを体系的に配置し、教育活動を実施した。
- ・2023年度多文化・国際協力学科実験的講座「オンラインによる Lecture on Latin American Society」はメディアを高度に利用した授業科目としてメキシコ Metropolitan Autonomous Univ.から同時双方向型授業として実施した。

2 学修支援強化

- ・学外学修・キャリアセンターを2024年度から開設した。
- ・ライティングセンターの相談業務は、Google ドキュメント・Meet、Zoomを用いて、学習者に寄り添った形態にほぼ移行できた。女性研究者支援センターは、国の補助事業期間が終わり自己資金予算の範囲で実施可能な事業規模で、研究支援員配置プログラム、研究スタートアップ支援事業、英文校閲費用助成事業及び科研費調書作成セミナーを実施している。

3 奨学金制度の周知と柔軟な運用

- ・「新型コロナウイルス感染症拡大による家計急変学生支援奨学金規程」に基づく給付型の奨学金募集を行い、前期は6名の学生に一人当たり20万円ずつ奨学金を支給した。後期は5名の学生に一人当たり20万円ずつ奨学金を支給した。
- ・学ぶ意欲がありながら、経済的に困窮しており、修学に係る費用が不足する者に対して、本学学部在学中の学費(入学金、授業料、施設設備費、実習費)または学修に係る費用(留学を除く)に充当するために20万円を最大10名まで給付する経済支援奨学金「梅の結び奨学金」および、物価上昇分を支援することを目的として、5,000円相当の図書カードまたはQUOカードを最大 200名の学生に支給する「津田塾生の学びと学生生活応援支援」の二種類の奨学金を検討したが、2023年度は赤字予算であるため取組の改善と同時に実施する事とした。
- ・学生にとって日本学生支援機構の説明資料だけでは理解しにくい部分についてポイントをわかりやすくまとめたチラシ等資料を独自に作成したため、本人だけでなく、保証人にも制度の理解を促すことが出来た。また、対面による説明会実施は学生にとって不明点を解消することに繋がり、窓口での問い合わせが減った。
- ・奨学金に関する複雑な仕組みや手続きを学生向けにわかりやすく解説したオンデマンド動画のバージョンアップに取り組んだ。具体的には、20分弱の長さだった動画を10分以内に要点をまとめ、編集し直した。これにより、途中で離脱することなく学生が視聴、内容を理解し、スムーズに手続きを行うことができるようになった。

4 進路支援強化

- ・学外学修センターと連携し、低学年対象のキャリア授業や参加学年を指定しないセミナー等、年間を通してさまざまなガイダンスを実施し、いずれも順調に進んでいる。
- ・学外学修センターと連携し、低学年からも参加可能な「ワタシの未来発見ワークショップ2023」を第2タームに実施した。年代も職種も多様な卒業生協力のもと、キャリア観を醸成する機会を設けた。
- ・4月～6月にかけて、本学と親和性の高い企業に協力いただき小規模での企業セミナーを実施した。合計11社の企業の方に協力いただき、各回平均10名前後の学生が参加した。その結果、のべ15名の内定に結びついた。
- ・キャリア支援人材については、こちらの希望に合致する人材を外部委託では確保できなかったが、専任職員経験値を増やすことができた。今後も今年の経験を活かしてきめ細かな対応を行っていくとともに、外部人材の登用によるコア業務を担う人材育成を進めていく。
- ・第2タームに「キャリア授業」を実施した。学芸学部の科目であるが総合政策学部からの受講もあり支援効果があった。
- ・OG懇談会を年間を通して定期開催し、延べ約100名卒業生を招いている。
- ・企業の採用活動が長期化する傾向があり、それにより就職活動も長期化している。長期間就職活動継続中の学生がいたため、年内までは進路報告を強く求めなかったが、12月以降、4年生ゼミ担当教

(学生支援に関する計画)

- [9] 学生生活支援強化
- [10] 奨学金制度見直し
- [11] 学外学修・進路支援強化
- [12] 研究の推進及び管理

(社会貢献に関する計画)

- [13] 社会貢献

(施設・設備整備に関する計画)

- [14] 建築(小平キャンパスマスタープラン)
- [15] 設備更新(建造物関連)、修繕
- [16] 設備更新(情報関連)
- [17] 省エネ対策

(業務運営体制の整備に関する計画)

- [18] 私立大学ガバナンス・コードを指針とするガバナンス体制の保持
- [19] 教職員の中期的人事計画の策定、実施
- [20] 教職員の安全で快適な就労環境の構築
- [21] 個々の職員がポテンシャルをフルに発揮できる就業制度の構築と長時間労働の是正
- [22] 業務分析、見直しの実施と、電子化の推進、業務の効率化、生産性の向上
- [23] 認証評価

(資金に関する計画)

- [24] 資金計画

(広報に関する計画)

- [25] 広報活動

(記念事業に関する計画)

- [26] 創立125周年記念事業

III 予算の概要

2024年度予算については、物価高騰による支出の増加を抑えるため、2023年度から行っている支出削減を継続することを前提に予算を立案している。各部署からの予算申請に対し、必要性、緊急性、優先度などを確認し、(前年予算比)教育研究経費80百万円減、管理経費50百万円減を実現した。収入面においては、直近の入試状況をふまえて学生生徒等納付金や入学検定料を計上している。寄付金収入については、2023年度まで行っていた120周年記念事業募金が2024年3月をもって終了したため、(前年予算比)寄付金収入149百万円減と計上した。このように厳しい収支構造が2024年度も続く事が予想されるため、予算編成方針を右記の様に定めた。

員に未報告者へ進路状況の確認を依頼した。その結果、3月末時点での就職決定率は97.9%となり、ほぼ達成できた。

5 研究体制整備・充実と研究の推進

- ・言語文化研究(イギリス文学、アメリカ文学、イギリス文化、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、英語教育、実践研究)、国際関係研究(国際政治、国際機構、国際協力、国際経済、国際社会、比較文化、アメリカ・アジア・ヨーロッパ・ユーラシア・アフリカ・イスラームの各地域研究、ジェンダー、ナショナリズム、マイノリティ、グローバルイゼーション、福祉社会)、数学・計算機科学研究(数学および情報科学の諸分野)及び総合政策研究(政治学・経済学・公共政策・社会学・社会情報学・データサイエンス・英語学)を重点研究領域として、研究が行われている。各研究者は研究の進捗状況に応じて、学会発表、研究会での報告、紀要での公表、各専門分野の学術誌での論文公表を実施している。
- ・国の補助事業期間が終わり自己資金予算の範囲で実施可能な事業規模で、研究支援員配置プログラム、研究スタートアップ支援事業、英文校閲費用助成事業及び科研費調書作成セミナーを実施している。
- ・年度初めに立案した計画に基づき、他大学の公的研究費に係る不正の事例紹介のような啓蒙活動や、「研究倫理・コンプライアンス研修」等の必要な研修を実施している。また内部監査も計画どおり実施した。
- ・計画どおり2023年5月から研究費管理システムを運用している。発生源入力が実現し、また会計伝票起票・証憑書類の確認作業の効率化が進んだ。

6 国際化推進

- ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響によりアメリカ現地で開催された大学説明会へ参加することはできなかったが、アメリカ在住の帰国学生を対象としたオンライン説明会に2回参加した。
- ・「津田塾大学バイオニア・スカラシップ規程」に基づき審査を行った結果、受給者3名を選出し、総額4,195,000円を支給した。
- ・受給者の留学先は以下のとおりで、全員協定校派遣生として1年間留学している。アッパーオーストラリア応用科学大学(オーストラリア)、ウェスタンシドントン大学(米国)、ディーキン大学(オーストラリア)
- ・「文学部研究助成員八重子海外研究支援奨学金に関する規程」に基づき審査を行った結果、支給者1名、支出金額は50万円となった。受給者(博士課程)は研究活動をより深める目的で、英国 Oxford 大学 Lady Margaret Hall におけるアカデミックサマースクールに参加した。

7 社会貢献

- ・連携推進センターにおける各連携先との活動として、香川大学(小豆島)、福井県鯖江市、長野県飯田市、若手県田町等に学生・教職員が赴き、まちづくりや地域活性化に繋がるようフィールドワークを実施した。
- ・関西大学との連携事業においては、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」をテーマに、合同セミナー(7月1日～2日)を関西大学吹田・梅田両キャンパスで開催し、連携関係を強化した。
- ・若手県田町との連携事業では、学生が8月・2月と現地に赴いて地域活性化案を練り上げ、2月21日(水)には田町町長へのプレゼンを行い、次年度以降にも連携事業を継続できる体制を構築した。
- ・「みんなで作ろう! 明治公園祭(11月3日)」に連携推進センターとして協力し、連携協定先の福井県鯖江市、長野県飯田市がブース出展、梅五輪プロジェクトの学生も参加し、地域住民のほか、東京オリピック・パリンピックの跡地利用に興味を持って来訪した参加者にそれぞれの魅力をPRした。
- ・「香川と都市圏の大学連携推進事業～かわ Bridge プロジェクト(KBP)～」において、本学学生が参加する実践型プログラムを計画通り実施した。
- ・実験的講座「デザイン思考による地域創生学」を第2タームに開講し、履修者数 72名、うち単位取得者は68名であった。
- ・鯖江市と単年度業務委託契約「津田塾大学産業観光モデル事業業務」を締結のうえ、学生が主体となり自治体、地元企業と連携のうえ鯖江市の観光ルートを創設した。その内容については『こりっぷマガジン Vol.40 2024春 列車にゆられて、すてきな町へ(昭文社)』のp58-59に掲載された。
- ・飯田市と業務委託契約「令和5年度 大学連携ブランド力向上業務委託」を締結のうえ、飯田市の伝統工芸品である水引のブランド発信を学生中心に各種イベント(明治公園祭、下北沢等)への出展、販売チャネルの増加(南信州地場産品、津田塾大学系)等を通じて展開した。
- ・地域支援講座「津田梅子に学ぶ女性の自立」は、「10月19日 大瀬久恵、10月26日 高橋裕子、11月2日 村川庸子、11月9日 香川せつ子、11月16日 小島美枝子」で実施した。
- ・2019年度の開講講座数は21、延べ人数436人。再開した2023年度開講プログラム数は19、延べ人数は306人で、ほぼ同数の講座数で実施した。(クリスマスコンサートを除く)
- ・2024年度以降のTsuda Open University(TOU)の事業運営に関しては、交流館プログラム運営協議会にて、「閉校」で審議・承認され、併せて大学運営会議においても報告された。その結果を受け、交流館プログラムの拡充を、科目等履修制度を利用したリカレント教育と連動して行う方針が交流館プログラム運営協議会で確認された。
- ・一般公開している「総合」「女性学」は計画通り実施し、外部聴講生は「総合」255名、「女性学(1)」9名、「女性学(3)」6名、「女性学(4)」7名(全て延べ人数)となった。なお追加の公開講座として「日本文学(古典文学)」(3)も実施した。こちらは延べ人数288名となった。

8 建築(小平キャンパスマスタープラン)

- ・2019年度に策定した小平キャンパスマスタープランにのっとり、2023年9月理事会にて、小平キャンパスマスタープラン全体修正計画案(2023年度よりウェルネス棟の基本設計を開始すること、

「経常的な予算（経常予算および別途措置）は、2023年度予算額から更に一律5%総額5,000万円の削減とする。また、「新規事業予算」についても、2023年度措置額より5,000万円の削減を行い、5,000万円+5,000万円を合わせた1億円を本学全体でのビジョン実現および特別予算（物価上昇対応等・コロナとする。）

上記方針の基、予算を作成した結果、事業活動収支の経常収支差額は△15百万円となったが、基本金組入前当年度収支差額は5百万円となり、黒字を確保できる見込みである。昨年に引き続き、収入増加の大きな要因をなす入学者数の確保とともに、支出削減に努め、財政の健全性を維持していく。

資金収支の翌年度繰越支払資金は554百万円であり、目安としている500百万円以上の手元資金を確保している。以下、事業活動収支予算書と資金収支予算書について、2023年度予算に対する2024年度予算の主な増減とその要因、および特記すべき収入・支出を示す。

●事業活動収支予算書

経常収支差額	△15百万円
特別収支差額	55百万円
予備費	△35百万円
基本金組入前当年度収支差額	5百万円
基本金組入額合計	△545百万円
当年度収支差額	△540百万円

主な増減(前年度予算対比)とその要因

(単位:円)

	科目	増減	要因
収入	1 学生生徒等納付金	59百万円増	1年生は予算定員で計上 留年者(休学・留学・留年)2023年度103名→2024年度142名に増加
	2 寄付金	149百万円減	120周年記念事業終了、125周年記念事業開始
	3 経常費等補助金	19百万円増	経常費補助金375百万 高等教育修学支援125百万計上
	4 付随事業収入	7百万円増	入寮金、寮舎費2023年度並み
	5 雑収入	37百万円増	退職金財団交付金収入増(2023年:41百万→2024年:57百万に増加)、モデルルーム、駐車場収入
支出	1 人件費	21百万円減	教職員人件費:6百万支出減 退職給与引当金繰入:84百万→69百万に支出減
	2 教育研究経費	80百万円減	光熱水費2022年度並み
	3 管理経費	8百万円減	光熱水費2022年度並み

2024年度より新2号館建設の検討を開始)が承認された。

- ・引込受変電設備工事、南北サブステーション変電設備機能追加をはじめ、計画通り実施した。
- ・寮整備計画検討WGを開催し、新寮建設の方針をとりまとめた。その上で、新寮建設の方針(寮運営、建設場所、収容人数、建物・部屋の仕様、留学生受入等)を検討中である。
- ・小平キャンパスマスタープランの見直しに基づき、1棟目の新築工事(2026年3月竣工予定)を計画通り実施している。

9 修繕

- ・5号館防火シャッター更新を計画通り実施した。
- ・予算執行の優先順位により樹木剪定を実施し、案内看板、参道整備は未実施となった。

10 設備更新

- ・図書館エレベータ更新、防火区画改修工事を計画通り実施した。
- ・トイレ警報器の守衛所接続工事を計画通り実施した。
- ・中長期修繕計画に沿って計画通り実施した。主任電気技術者のアドバイスにより、一部工事を次年度以降実施することとなった。
- ・大学ホール換気設備設置を計画通り実施した。
- ・特別教室照明更新、換気設備更新を計画通り実施した。
- ・特別教室、2101、H216、H315のAV機器更新を計画通り実施した。
- ・S303、S305教室改修を計画通り実施した。
- ・グラウンド階段増設工事を計画どおり実施した。
- ・マンホールトイレ設置工事を計画通り実施した。
- ・西国分寺セミナーハウス設備更新を計画どおり実施した。
- ・構内サクラ更新(1期)を計画通り実施した。
- ・2021年から3年計画で進めていた以下の情報基盤設備更新を実施した。
- ・通信環境強化
- ・貸出ノートPC更新
- ・無線AP更新/増設
- ・サーバ(補助金採択)更新
- ・スイッチ、プリントシステム更新
- ・小平キャンパスの無線AP105台の更新対応を実施した。

11 資金計画

- ・予算執行時の節減と、相見積りによるコストダウン等を精力的に行った結果、大幅に支出削減を達成できた。特に、光熱水費については、政府の補助政策、節電、小平キャンパスの井戸の改修の結果、2022年度を下回る支出となった。
- ・小平マスタープランについては、管理課を中心に見直しの検討を行い、現状の物価高騰を反映した資金計画を再作成した。また、第1フェーズに建築予定のウェルネス棟、新2号館について、理事会で承認された。

12 認証評価

- ・「2023_自己点検・評価報告書_評価一覧」について、大学運営会議より関係各部署に対して、「2023_自己点検・評価報告書_評価一覧」を踏まえた、2023年度自己点検・評価報告書の確認・修正の指示を行った。
- ・IR推進室にて、2023年12月にALCS学修行動比較調査を、全学年を対象に実施した。
- ・計画通り点検・報告書等を作成し、大学基準協会へ提出した。

13 働き方改革

- ・昨年度と同様、事務局の窓口時間、電話受付時間は9時から16時とし、オンライン会議、問い合わせフォームを活用することで、時間外労働の削減に努めた。時間外労働の時間数は、コロナ以前の2019年度の数値を1割弱下回る程度であったため、今後はより一層、ペーパーレス化、電子化を進めることで、時間外労働の削減に努めた。

14 業務改善

- ・発生源入力を導入した部署の中で「総務課」「管理課」「図書館」については一定の成果を得る事ができた。一方、デメリットも確認しており、入力された内容を経理課にて検証するという過程において、現行システムでは入力内容の承認という機能が無いため、入力内容に誤りがある状態で入力済みとなっている点が、業務フローとして改善すべき課題として認識されている。この課題に対しては、2024年度以降会計システムの改修もしくは新規への変更を検討していく。
- ・業務効率化を図った結果、3部門(管理・教務・学生厚生)の超過勤務時間数の削減に繋がった。ただし、上記3部門に属さない「連携推進センター」の業務職員に関しては、各種連携活動が活発化したことに伴って業務量が増加した。

15 広報活動

- ・本学主催にて新紙幣発行記念シンポジウムを開催するなど、大学ブランドを周知し、寄付金の目標金額5億円を大幅に上回る635,389,611円を達成することができた。

16 120周年記念事業

- ・レプリカ制作費(832万円強)と作業期間(約24ヶ月)、そしてアフターケアの困難さ(小袖現物と同等の対策が必要)を鑑み、複製(レプリカ)作成は中止し、別の方法を検討することになった。なお現在は、

●資金収支予算書

翌年度繰越支払資金	554百万円
-----------	--------

主な増減(前年度予算対比)とその要因

(単位:円)

	科目	増減	要因
収入	1 その他の収入	273百万円減	奨学金引当特定資産取崩340万 退職給与引当特定資産取崩740万 減価償却引当特定資産取崩399万
	学生生徒等納付金、手数料、付随事業収入、雑収入の増減は事業活動収支と同一 寄付金、補助金は、事業活動収支で説明済み		
支出	1 人件費支出	12百万円増	教職員人件費:6百万支出減 退職金支出:19百万支出増
	2 教育研究経費支出	117百万円減	事業活動収支と同様。ただし、減価償却額を除く
	3 管理経費支出	47百万円減	事業活動収支と同様。ただし、減価償却額を除く
	4 施設関係支出	374百万円増	小平キャンパス高圧受変電設備更新工事 1号館空調機・換気設備・ブラインド更新工事 特別教室 特定天井他(非構造部材)更新工事 5号館 LED 更新工事 他 小平キャンパス 電話交換機更新 白梅寮給湯器更新 他 小平マスタープラン(建物/ウェルネス棟設計) 小平マスタープラン(建設/新寮設計)
	5 設備関係支出	80百万円増	千駄ヶ谷キャンパス無線AP更新 証明書自動発行機更新 他 図書・ソフトウェア
	6 資産運用支出	56百万円増	奨学金引当資産繰入300万 退職給与引当資産繰入690万 減価償却引当特定資産繰入250百万 特定目的引当資産繰入200万 他

以上

女子美術大学染織文化資源研究所の提案により、デジタル媒体・手法による「小袖の色再現プロジェクト」を計画中である。

- ・寄付金の目標金額5億円を大幅に上回る635,389,611円を達成することができた。
- ・30% Club 大学WGの会議に、学長・副学長・女性研究者支援センター長・同事務室長が参画し、同Club参加団体と議論を重ねている。2024年2月13日に9大学トップによる「多様性ある大学運営」のためのコミットメントがプレスリリースされた。
- ・2023年度は3名の学生(アッパーオーストラリア応用科学大学、ウェスタンワシントン大学、ディーキン大学に留学)にバイオニア・スカラシップを支給した。
- ・コケン大学、チュロコン大学(タイ)との学生交流締結に向け、先方と協議を開始、2024年度の締結を目指している。
- ・淡江大学の学長招聘について検討を行ったが、行事の都合により見送られた。
- ・ウクライナのUNHCR職員、Vartan Muradian氏の講演会を2023年5月に実施した。
- ・本学主催夏假期語学研修プログラム(インディアナ(米国)、ヨーク(英国)、マギル(カナダ))を実施、69名が参加した。事前学習として、元ヨルダン大使、加藤重信氏による危機管理説明会を実施した。
- ・2023年5月にロータリーフェローズ東京様との共催による記念講演会、同年12月に本学主催にて津田梅子、渋沢栄一、北里柴三郎3名の研究者等による鼎談を実施した。
- また、2024年1月に講演会「津田梅子と新渡戸稲造—二人の出会いと協力、別れまで」、3月に講演会「父・守屋多々志が屏風絵「アメリカ留学(津田梅子)」に込めた想い」を開催した。

2.財務の概要

2.1 事業の統括

2.1.1 経営状況の分析

2023年度は、2020年度から始まった第1期中期計画の4年目に当たる。この4年間に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や物価高騰により、本学の財政状況にも多大な影響を受けた。大学全体の支出が増える事への対策として、2021年度以降は、予算の削減と執行時の節減などの対応を行い、黒字決算を実現すべく全学一丸となって支出削減に努めてきた。その結果、Tsuda Vision 2030における大学経営ビジョン(前向きで、健全な経営を行う)を達成する事ができた。第2期中期計画においても引き続き、健全な経営を目指していく。

2.1.2 経営上の成果と課題

基本金組入前当年度収支差額は第1期中期計画が始まった2020年度から2023年度まで全て黒字を達成できた。また同時に、予算の削減や節減を行った結果であるが、必要最低限の支出を心掛けるをえず「将来に向けた教育への投資をいかに行うか」という課題を認識している。

2.1.3 今後の方針・対応方策

2024年度より第2期中期計画が始まる中、今後も基本金組入前当年度収支差額を黒字とする事を基本方針とし、収入を増やす経営を行っていく。2025年度より学費改定により増加する収入を原資として、教育への投資を充実していく。

2.2 収支計算書の状況

2023年度は、一学科のみ入定員を下回りつつも大学全体では予算定員を確保する事ができたが、留学に対する学費減免が想定より多かった為、学生生徒等納付金は予算に対し17百万円減少した。また補助金収入において、私立大学等改革総合支援補助金、高等教育修学支援補助金は想定通りの補助金額を獲得できたが、施設整備費等補助金において2件獲得ができなかった事により、予算より36百万円減少した。

一方、支出面では、光熱水費が2022年度よりも支出増となる事を想定して予算を作成したが、結果的に2022年度を下回る支出となった為、光熱水費で57百万円支出減となった。また予算作成時に「コロナ対策及び特別予算(物価上昇対応等)」として、予算額を全部局一律5%総額500万円の削減と、さらに効率的な執行により全部局で5%総額500万円の節減を行う事により100百万円の予算を確保したが、交換留学生の費用負担、コロナ奨学金、能登半島地震被災学生支援奨学金等や、物価上昇対応として19百万円の支出に留まった。特に、各部署での予算執行時における節減が徹底された事により支出を大幅に削減する事ができた。その為、経常収支差額は48百万円となり、資金収支の翌年度繰越支払資金は十分な金額を確保できている。

事業活動収支計算書の収支差額は以下の通りである。

基本金組入前当年度収支差額	58百万円
基本金組入額合計	△123百万円
当年度収支差額	△65百万円

資金収支計算書の翌年度繰越支払資金は以下の通り、目途としている500百万円を超える額となっている。

翌年度繰越支払資金	687百万円
-----------	--------

以上

事業計画、事業報告書の詳細はこちらから



創設120周年記念事業

講演会「父・守屋多々志が屏風絵『アメリカ留学（津田梅子）』に込めた想い」

創設120周年記念事業の一環として、日本画家守屋多々志画伯のご息女、古館多寿子氏による講演会「父・守屋多々志が屏風絵『アメリカ留学（津田梅子）』に込めた想い」が2024年3月21日、小平キャンパス津田梅子記念交流館 岡島記念チャペルにて開催されました。本学には日本初の女子留学生が、アメリカへ到着する直前の様子を描かれた屏風絵「アメリカ留学（津田梅子）」が展示されています。作者の守屋多々志氏は1954年（昭和29年）、総理府留学生としてイタリアに2年間留学しました。長い船旅を経て外国の地に間もなく到着するという時にとても高揚した気持ちを感じ、幼い津田梅子もきっと同じであったであろう、その気持ちを表現しようとする屏風絵を描いたとのことでした。古館氏からはさまざまなエピソードが語られ、来場者との質疑応答も行われ、とても温かな雰囲気での講演会となりました。



津田塾大学創立125周年 / 津田梅子生誕160年記念事業 国際化推進事業

「平和とは何か－アンネのバラ、原爆、そして戦後80年」報告

『アンネの日記』の作者アンネ・フランクの父オットー・フランクが世界に贈りたいと願ったという「アンネのバラ」。「平和の架け橋」として日本の地にも根づき、高大連携協定校である東京女学館中学・高等学校より接ぎ木を頂いて本学小平キャンパスの中庭に2024年5月12日に植樹しました。記念企画としてシンポジウムと、津田梅子記念交流館山根記念ギャラリーにてオランダのアンネ・フランク財団作成による34枚のパネル展示「アンネ・フランク展」を開催しました（2024年6月28日まで）。シンポジウムの冒頭は、東京女学館の渡部さなえ校長による「アンネのバラ」紹介、その後に広島県福山市のホロコースト記念館吉田明生館長と、コソボで民族融和オーケストラを主宰する指揮者の柳澤寿男さんからのビデオメッセージが続きました。若者世代の登壇者として、オーストリアから兵役の代わりにボランティア活動のために来日中のトリスタン・ダハさんがホロコーストの犠牲となった曾祖父のことを、また本学英語英文学科4年の久保咲喜さんは「平和研究」の授業をとおして考えた「平和のために何ができるか」を語りました。卒業生の田嶋陽子氏の中学時代の『アンネの日記』（初版）読書感想文入選作を高橋裕子学長が朗読するサプライズも。バラの植樹は世代を超えた平和への思いを共有する機会となりました。



6月25日開花

ロジャー・パルバース氏講演会「EVERYTHING YOU HAVE EVER WANTED TO KNOW ABOUT THE ENGLISH LANGUAGE」を開催しました

2024年5月15日、津田塾大学創立125周年 / 津田梅子生誕160年記念事業 国際化推進事業として、ロジャー・パルバース氏の講演会を行いました。本学の学生はもとより、一般の方も多くご参加いただきました。

“EVERYTHING YOU HAVE EVER WANTED TO KNOW ABOUT THE ENGLISH LANGUAGE”と題された講演では、日本語、ロシア語、ポーランド語など多数の言語に堪能なパルバース氏ならではの視点から、英語を学ぶ際にどのように言語と向き合えばよいのかという助言とともに、ご自身の翻訳を紹介しつつ、言葉の豊かさについて興味深いお話を伺いました。多くの学生が講演終了後に残って質問をする様子が見られ、言語学習の動機づけとなるような、意義深い講演会となりました。



講演会「父・守屋多々志が屏風絵『アメリカ留学（津田梅子）』に込めた想い」、ロジャー・パルバース氏講演会は本学公式YouTubeチャンネルにてご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCzSdibdEnos0svBJ4gTbp3g>



2023年度第3・4ターム 授業に関するアンケート実施結果

2023年度第3・4タームの授業に関するアンケートを11・1月に実施しました。延べ47,566人の履修者数に対して回答者数は19,135人、回答率は40.2%でした。設問1～12、18～25は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、ほとんどの設問において4点以上と高評価を得る結果となりました。設問13～15、17は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問となっております。昨年度同時期から特に改善した項目は、1シラバスは有用だったか、20レポート等の返却、21自主的発言の評価の3つです。

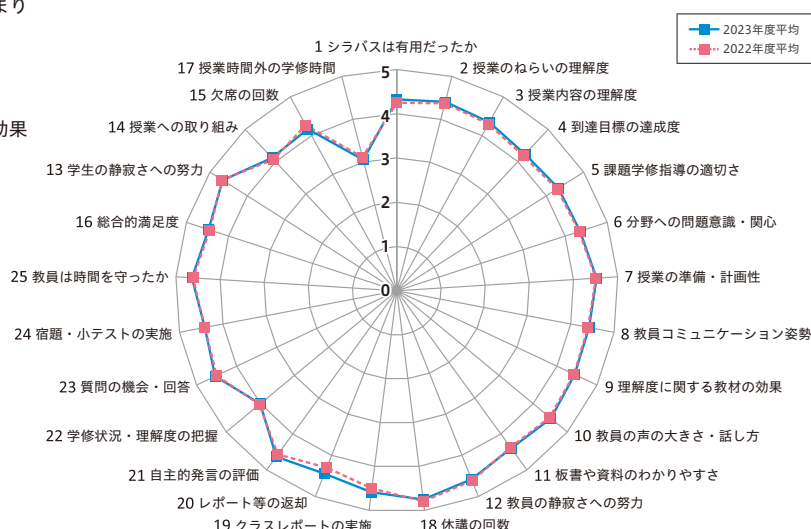
これら結果については各学科・関連委員会等で確認し、問題点の共有・検証・改善を行っており、その取り組み状況を全学教務委員会において確認しています。今後もアンケートを実施し、活用していきます。

授業に関する設問

- この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
- 各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
- 各回の授業の内容は理解できましたか。
- 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
- 課外学修の指導（参考文献の提示、文献の調べ方など）は適切でしたか。
- この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
- 教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
- 教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
- 教員の声の大きさと話し方は適切でしたか。
- 板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
- 教員は静かな環境で受講できるよう努力していましたか。
- 総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
- 教員は何回ぐらい休講（補講のないもの）をしましたか。
- 教員はクラスレポート（口頭発表）を課し、論評していますか。
- 教員はレポート等の返却（またはその告知）をしていますか。
- 教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
- 教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
- 教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
- 教員は宿題や小テストを課しましたか。
- 教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

- 授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
 - この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
 - この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
 - この授業に関して、授業時間外で学修に当たった時間は毎週どれくらいでしたか。
- ※ 文献調査・資料収集を行った時間も含む



※ 設問別 回答内容

- 問1～14、19～25 [5]: 大いにそう思う [4]: そう思う [3]: どちらともいえない
[2]: あまりそう思わない [1]: そう思わない
- 問15 (欠席回数) [5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上
- 問16 (総合満足度) [5]: 満足 [4]: やや満足 [3]: ぶつう [2]: やや不満 [1]: 不満

問17 (授業外学修時間 (週))

- [5]: 3時間以上 [4]: 1-3時間 [3]: 30分-1時間
[2]: 30分未満 [1]: ほとんど行わなかった

問18 (休講回数)

- [5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上

寄付者ご芳名

(2024年2月1日から2024年4月30日現在 掲載承諾者のみ)

サポート<津田スピリット>募金 創立120周年記念事業募金

愛川 敦子 様 島村 礼子 様
石田 せ江子 様 鈴木 美佐紀 様
和泉 順子 様 砂子坂 恵子 様
今泉 今右衛門 様 武田 健一 様
今泉 正子 様 田村 公美子 様
今木 典子 様 中島 光子 様
宇田川 史子 様 中村 孝子 様
遠藤 浩二 様 野口 啓子 様
押田 洋子 様 星野 美賀子 様
河村 在子 様 三浦 順子 様
北山 優子 様 山田 久爾枝 様
小林 梨江子 様 匿名 12名
小宮 久美子 様
佐竹 真弥 様
志藤 聡子 様

サポート<津田スピリット>募金 新型コロナウイルス感染拡大に伴う 緊急募金

匿名 1名

サポート<津田スピリット>募金

● 学修環境整備 (小平キャンパス)

佐々木 梅子 様

宮坂 絢嘉 様

匿名 1名

● 学生支援 (留学生派遣)

武田 英敬 様

匿名 1名

● 津田塾大学 教育振興資金

匿名 2名

● その他

野口 啓子 様

匿名 2名

創立120周年 記念事業募金のご報告

2019年度より開始しました創立120周年記念事業募金は、2023年度までに以下のとおり、みなさまからたくさんのご寄付を賜り、目標金額5億円を大きく上回ることができました。心より御礼申し上げます。

3,364件 635,389,611円

<内訳>

在校生保護者	417件	9,831,000円
卒業生	2,735件	269,023,348円
専任教職員	112件	323,206,838円
理事・評議員・監事	33件	15,846,981円
企業・団体	44件	16,510,000円
その他	23件	971,444円

2024年度入試結果報告

2024年5月1日時点

学芸学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
英語英文学科	220	1,335	1,289	1,018
国際関係学科	200	1,389	1,345	980
多文化・国際協力学科	70	368	343	244
数学科	45	292	278	178
情報科学科	45	277	261	131
学芸学部計	580	3,661	3,516	2,551
総合政策学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合政策学科	110	689	651	366
総合政策学部計	110	689	651	366
計	690	4,350	4,167	2,917

大学院（修士課程）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	15	13	11	10
国際関係学研究科	10	4	3	1
理学研究科	10	12	12	12
修士課程計	35	29	26	23
大学院（後期博士課程）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	5	1	1	1
国際関係学研究科	3	0	0	0
理学研究科	3	1	1	1
後期博士課程計	11	2	2	2
計	46	31	28	25

※単位は人数。一般選抜の他に、総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試、社会人入試を含みます。編入は含みません。

高大連携協定の締結について

2024年2月までに高大連携協定を締結した8校に加え、3月には東京女学館中学校・高等学校、桐朋女子中学校・高等学校、セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校、4月には関東国際高等学校、盛岡中央高等学校、そして5月には恵泉女学園中学・高等学校、晃華学園中学校高等学校および大妻中野中学校・高等学校の計8校と新たに協定を締結しました。今後は、教学面における情報共有、意見交換を行いながら、本学教職員による大学説明や模擬授業、探究学習への支援、また、協定校生徒によるキャンパス訪問や授業参加など、さまざまな活動を実施していくことになります。

その一つとして、協定校の生徒は、指定された科目の科目等履修生として大学の授業をオンデマンドで履修できるようになりました。入学した場合、(1学科を除いて)単位認定を願い出ることができます。本学の講義を入学前に体験し、入学後の自分の学びをしっかりとイメージしたうえで、本学を志願してほしいと願っています。

本学では地方の学生が多く学んでいます、その地域的多様性が生む価値はとても大きいものです。高大連携に関しても、地方の高校とも引き続き関係を強化していくことで、今後ともそのスタンスを維持していきます。

理事会・評議員会開催報告

第326回理事会 2024年1月26日

【審議事項】

1. 学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援申請に関する件

【協議事項】

1. 寄附行為変更の進捗状況に関する件
2. 創立125周年記念事業に関する件

【報告事項】

1. 津田梅子生誕160周年記念事業について
2. その他

第327回理事会 2024年3月1日

【審議事項】

1. 第2期中期計画(案)に関する件
2. 2024年度事業計画(案)に関する件
3. 2024年度予算(案)に関する件
4. 学費改定に関する件
5. 津田塾大学学則の改正に関する件
6. 新学部設置準備室(仮称)の設置に関する件
7. クロスアポイントメント制度に関する件
8. 元非常勤講師契約不更新訴訟に関する件

【協議事項】

1. 寄附行為変更の進捗状況に関する件

【報告事項】

1. 学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援申請について
2. 高大連携協定の締結について
3. その他

第203回評議員会 2024年3月22日

【諮問事項】

1. 第2期中期計画(案)に関する件
2. 2024年度事業計画(案)に関する件
3. 2024年度予算(案)に関する件

【報告事項】

1. 2023年度事業計画に係る中間報告について
2. 寄附行為変更の進捗状況について
3. 学費改定について
4. 学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援申請について
5. 高大連携協定の締結について
6. 卒業式について
7. その他

第328回理事会 2024年3月22日

【審議事項】

1. 総務・財務担当理事の選任に関する件
2. 第2期中期計画(案)に関する件
3. 2024年度事業計画(案)に関する件
4. 2024年度予算(案)に関する件
5. 津田塾大学大学院学則の改定に関する件
6. 新学部設置準備室設置要項に関する件

【協議事項】

1. 寄附行為変更の進捗状況に関する件

【報告事項】

1. 次期学長室の体制について
2. 元非常勤講師契約不更新訴訟について

3. 2023年度内部監査報告について
4. 卒業式について
5. その他

第329回理事会 2024年4月10日

【審議事項】

1. 元非常勤講師契約不更新訴訟に関する件

第330回理事会 2024年4月26日

【審議事項】

1. 理事会選出評議員の選任に関する件
2. 理事の競業に係る個別承認に関する件
3. 第2期中期計画(案)に関する件
4. 寄附行為変更に関する件

【報告事項】

1. 名誉教授称号授与及び津田塾友の称号授与について
2. 2024年度入試志願者状況と入学者数について
3. 2024年度内部監査計画について
4. 私立大学ガバナンスコードVer2.0について
5. 新学部設置準備室報告について
6. 第3期認証評価申請について
7. その他



お知らせ

津田梅子新5000円札記念シンポジウム

『津田梅子の創造と挑戦、そして明日へ ～未来を切り拓く女性の道標～』

以下の通り記念シンポジウムが開催されます。会場限定販売記念グッズもあります。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時：2024年9月14日(土) 13:00～17:00
- 会 場：津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス 広瀬記念ホール 他（ハイブリッド開催）
※無料、事前申込制（先着順）
- 主 催：一般社団法人津田塾大学同窓会 ●共 催：学校法人津田塾大学



津田梅子新5000円札
記念プロジェクト2024
特設サイト

時 間	プログラム	表 題	会 場	登 壇 者	
13:00 ～	開会挨拶	シンポジウムを記念して（仮）	広瀬記念ホール	津田塾大学同窓会会長 内海 房子	総合司会 草野 満代
13:05 ～	基調講演	津田梅子が目指した教育理念		津田塾大学学長 高橋 裕子	
13:45 ～	特別講演	生物学研究者としての 津田梅子が今に語りかけるもの		総合研究大学院大学客員研究員 古川 安	
			休 憩		
14:25 ～	パネルディス カッション①	はたらく	未定	モデレーター 山村 美智 パネリスト 板倉 由実、稲葉 利江子、大山 友理	
	パネルディス カッション②	まなぶ	未定	モデレーター 木村 恭子 パネリスト 伊藤 実佐子、下野 恵実子、松野 亮子	
	パネルディス カッション③	いきる	未定	モデレーター 川端 浩平 パネリスト 大野 泉、佐原 亜子、嶋田 和子	
			休 憩		
16:15 ～	Share Session	モデレーターによる報告	広瀬記念ホール	各パネルディスカッションのモデレーター	総合司会 草野 満代
16:35 ～	閉会挨拶	今後に向けて（仮）		津田塾大学学長 高橋 裕子	

パネルディスカッション①～③は3会場で同時開催。

※内容は変更となる場合があります。

津田梅子記念会 & ホームカミングデー開催

2024年10月13日(日) 会場：津田塾大学 小平キャンパス

- 午前の部（10:30～12:10）
 - ・学長挨拶、同窓会会長挨拶 ・津田梅子記念礼拝
 - ・高校生エッセー・コンテスト表彰式 ・津田梅子賞贈賞式
- 午後の部（13:30～15:00）
 - ・理科創設80周年記念シンポジウム
- その他のイベント
 - ・津田梅子資料室企画展示
- 連絡事項
当日、同期会や有志で会場使用をご希望の場合は、大学の教室等を会場としてお使いいただけます。ご希望の方は経営企画課にお申込みください。なお、使用会場・時間帯は行事との関係で調整させていただく場合がございます。
- お申込み・問合せ先
経営企画課 TEL：042-342-5146 E-mail：forum@tsuda.ac.jp
＊詳細は決まり次第、大学公式Webサイトで公開します。

夏期・冬期公開講座（大学院文学研究科英語教育実践研究）

文学研究科英語教育実践研究では、現職の英語教員、英語教育について学ぶ学生・大学院生、英語教育に関心のある方を対象に、公開講座を実施いたします。詳細は大学公式Webサイトをご覧ください。

夏期公開講座「Groupwork, group dynamics, and language teaching」

- 日 程：2024年8月22日(木)、23日(金)、24日(土)、26日(月)、27日(火) 各日とも10:30～12:00
- 講 師：Ian Paul Leeming 氏（近畿大学教授）
- 開催形式：オンライン（Zoom）※英語での講義です。同時通訳はありません。
- 定 員：60名
- 受講料：各回2,500円（本学学部生1,000円）、全日程申込の場合は10,000円。
本学専任教員・非常勤講師、本学大学院生の受講料は無料。いずれも要事前申込。
- 申込方法：Google フォームまたはQRコードからお申し込みください。
- 申込締切：2024年8月8日(木)
- 問合せ先：文学研究科英語教育実践研究担当 E-mail：e-info@tsuda.ac.jp

[Google フォーム]
[https://forms.gle/
MQNAZVqrvaHJRx6](https://forms.gle/MQNAZVqrvaHJRx6)



冬期公開講座「明日の授業に活かせる英語指導の理論と実践」

- 日 程：2024年12月24日(火)、25日(水)、26日(木)、28日(土) 各日とも10:30～12:00
- 開催形式：オンライン（Zoom）

※詳細は10月頃、大学公式Webサイトにてお知らせいたします。



お知らせ

2024年度 第24回 高校生エッセー・コンテスト 持続可能な開発・民主主義・平和 ～高校生の私が考えること～

- 募集内容**：大学公式Webサイトに掲載している募集要項裏面の英文を読んで、「持続可能な開発・民主主義・平和 ～高校生の私が考えること～」をテーマにしたエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1000～1200字程度。必ずマータイさんの言葉に触れてください。(https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/index.html)
- 応募資格**：高校生（国籍・学年・性別・居住地は問いません）
- 応募方法**：所定の Google フォームにエッセーを記載して応募（郵送・持ち込みは不可）。
【Google フォーム】https://forms.gle/YFRTJG3dD7VD8rUw6
- 募集期間**：2024年8月1日(木)～9月2日(月) 12:00受付締め切り
- 表彰**：最優秀賞1名（賞状及び副賞5万円を贈呈）
優秀賞若干名（賞状及び副賞1万円を贈呈）
受賞者は、9月中旬に大学公式Webサイトで公表します。最優秀作品は津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と大学公式Webサイトに、優秀作品は大学公式Webサイトに掲載・公表します。なお、応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。
- 問い合わせ**：津田塾大学ライティングセンター 高校生エッセー・コンテスト事務局
(TEL：042-342-5142 E-mail：essaycon@tsuda.ac.jp)



第65回 津田塾祭 (小平キャンパス)

2024年10月19日(土)、20日(日)に小平キャンパスにて津田塾祭を開催します。

公式X：@tsudajukusai
公式Instagram：tsudajukusai
公式Webサイト：https://www.tsudajukusai.com/

第8回 津田ヶ谷祭 (千駄ヶ谷キャンパス)

2024年11月23日(土)、24日(日)に千駄ヶ谷キャンパスにて津田ヶ谷祭を開催します。

公式X：@Tsudagaya
公式Instagram：tsudagaya_fes
公式Webサイト：https://tsudagaya.jp/

● 表紙への想い ●

新五千円札と中庭の藤 CHIKU

津田塾大学の創立者、津田梅子が肖像となった新五千円札の発行を記念して。新紙幣の裏面には藤の花が描かれていることから、小平キャンパスの中庭にある満開の藤棚の下、祝福された様子を想像して制作しました。

津田梅子記念交流館プログラム

詳細は津田梅子交流館Webサイト (https://koryukan.tsuda.ac.jp) をご覧ください。

夏休み子ども英語プログラム ～津田塾生とつくる英語劇2024～ 「モモと時間どろぼう～大切な〈時〉をめぐる物語～」

- **日程**：2024年7月29日(月)～8月4日(日)
※8月1日(木)はお休み
- **時間**：10:30～14:30（お昼休みを挟む）
- **場所**：津田塾大学（小平キャンパス）
- **対象年齢**：小学校5年生～中学校2年生
- **受講料**：12,000円（プロによる撮影代込）
- **定員**：20人
- **お申込み・お問い合わせ**：経営企画課 Tel：042-342-5146

英語教員のための ワークショップ

- **講師**：Diane Rodriguez-Kiino氏、田尻 悟郎氏
- **日時**：2024年8月4日(日)
10:00～16:45
- **定員**：50名
- **受講料**：6,000円、
本学在学生3,000円

数学教員のための ワークショップ

- **講師**：小林 俊道氏、野野 直史氏、小森 弘三氏
- **日時**：2024年8月10日(土)
9:00～16:15
- **定員**：30名
- **受講料**：6,000円、
本学在学生3,000円

本学在学生の受講料は半額です。
詳細は交流館Webサイト(https://koryukan.tsuda.ac.jp)をご参照ください。



Tsuda Today No.131
発行日 ● 2024年7月17日
発行 ● 津田塾大学

編集 ● 経営企画課 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1
Tel. 042-342-5113 https://www.tsuda.ac.jp/

表紙切り絵 ● CHIKU
(種村千明・2000年卒)